

## 総括

### ■ 種別

高度・専門機能「救急医療・災害時の医療」を適用して審査を実施した。

### ■ 認定の種別

書面審査および4月26日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「救急医療・災害時の医療」 認定

### ■ 改善要望事項

高度・専門機能「救急医療・災害時の医療」  
該当する項目はありません。

#### 1. 病院の特色

1964年に救急告示病院の指定以来、高知県内の救急医療の実績を有している。病院救急車、ドクターカー、ドクターヘリの運用も行い、運営方針である「わたしたちは、急性期医療を柱として24時間365日いつでも、よりよい医療が提供できるよう、努めます」などに基つき、年間多くの救急患者を受け入れており、県下の救急医療を支える病院として重要な役割を担っている。

病院全体として多職種が連携してチーム医療を実践し、教育、研修も含めた機能は高く評価したい。また、災害医療についても地域を先導し、高知県の災害対策をはじめ、あらゆる災害を想定し、対応するための体制や取り組みは高く評価できる。今回の受審を機に、貴院の益々の発展につながれば幸いである。

#### 2. 地域の救急医療を支える効果的な仕組み

法人ならびに病院の理念を通して救急医療の充実に専心し、救命救急センターの理念、基本方針に基つき、救急医療を提供している。高知県保健医療計画やメディカルコントロール協議会、医師会・地域医療機関との救急医療協議会、県下の3救命救急センター連絡会議等で連携を行っている。また、病院前の消防機関とも連携し、地域から求められる役割と機能の発揮に努めている。外来部門は「北米型ER方式」を採用し、初療全般を担い、診療各科医師と協働により、重症度に合わせて必要な診療を提供している。また、循環器ならびに脳卒中の診療は24時間体制で対応しており、オンコール体制を整備して質の高い医療が提供可能な体制である。

部門内に医療事務職員（クラーク）、医療秘書、医療事務補助者などを配置し、救命救急センターに求められる救急医療統計の整理をはじめ、様々な診療行為に付随する記録の補助や文書作成を行っている。救急医療に必要な施設・設備として、陰圧対応エリアがあり、新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症患者の対応に配慮している。救急専用病床に加え、ICU、HCU、SCUを有しており、日中は地域連携室、夜間は当直師長が重症度に合わせて入院できるようベッドコントロールを行っている。

### 3. 救急医療への適切な対応

基準に基づき、適切に救急患者を受け入れている。他院で受け入れ困難事例等にも対応しており、多数の傷病者を受け入れ、地域医療に貢献している。救急患者のほぼ全例にトリアージを実施し、緊急度・重症度に応じて対応している。また、トリアージは、実務条件を満たした看護師が実行することで質を担保している。臨床検査技師、放射線技師が24時間常駐しており、救急患者に必要な検査、診断が可能な体制が構築されている。パニック値の報告は、依頼医、上級医、当直医の順番で確実に医師に報告する手順が定められている。麻酔科医が緊急手術、全身麻酔緊急手術に対応しており、外科系診療科と円滑に連携し、迅速に必要な手術に対応する体制である。また、集中治療室において患者の周術期の管理を適切に行っている。感染対策の手順を整備し、様々な感染が疑われる症例に対応している。医療者の動線や患者同士の接触を回避できるように感染防止策を徹底している。身元不明救急患者の対応、暴言、暴力等の迷惑行為に対応する手順を整備し、危機的な場面でも混乱を最小限に抑えるよう努め、院内職員との連携、警察への連絡の手順について明記されている。

リハビリテーション部門に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を配置し、毎日開催されるカンファレンスに療法士が参加している。全ての救急入院患者に対して迅速にリハビリテーション計画書を作成しており、入院後24時間以内にリハビリテーションを開始している。また、連休も含めて365日体制でリハビリテーションを実施し、確実に効果を上げている点は高く評価できる。救急外来処置室、観察室はプライバシーが確保された環境であり、家族の心理面に配慮し、診察室や別室を使用して病状説明等に対応している。説明する際は看護師が同席しているが、医師の病状説明の記録、患者の反応などについて確実に記録に残すことを期待したい。

### 4. 救急部門の質改善に向けた取り組み

救急医療に関する教育・研修として、定期的にICLSコースを開催し、院内の職員、院外からの医療者が受講している。専門医の取得や更新のため、学会や研修の参加について費用面を支援している。また、看護師特定行為研修の研修機関であり、計画的に看護師の育成を行っている。

毎朝開催されるモーニングカンファレンスは救急科医師、放射線科医師、看護師、療法士等の多職種が参加し、医療の質向上に取り組んでいる。また、CPCが活発に開催されており、初期研修医の教育の質向上に繋がっている。4週間以内の予

定外再入院率等の QI が設定されている。他病院と比較をして重傷外傷の救命率向上を目指し、トラウマコール体制を発足させている。結果として、あらゆる重症、外傷にも対応し、救命率の向上に繋がっている。

#### 5. 災害時の適切な対応のための体制

災害時対応に関する運営理念・運営基本方針を明確に示している。災害医療マニュアルを整備し、常に災害発生時に対応できるよう適宜改定しており、ポケットガイドやアクションカードにて職員は即時に判断して行動することが可能である。多数傷病者発生時には DMAT の編成が可能であり、迅速に医療支援チームを派遣する体制を構築している。また、医療支援チームを派遣するための資機材が整備されている。近隣で多数傷病者が発生するような大災害時に備え、マニュアルには災害対策本部の立ち上げ、トリアージゾーン、重症度別収容受け入れゾーンが定められている。災害対応訓練は計画的に実施されているが、より充実した燃料・食料・飲料水の確保を期待したい。

CBRNE 災害等の特殊災害の対応は、受け入れる可能性が高い場面を想定したマニュアルが整備されている。施設内外の動線や対応エリアの設定等について、手順を定めていることは評価できる。

## 1 地域の救急医療を支える効果的な仕組み

### 評価判定結果

1.1	救急部門の地域における役割、基本方針と連携体制	
1.1.1	地域における役割を踏まえた救急部門の運営理念・運営方針を明確にしている	Ⅱ
1.1.2	地域における役割と連携体制が適切に定められている	Ⅱ
1.1.3	地域における役割と連携体制の改善に努めている	Ⅱ
1.1.4	地域および他施設の医療従事者・救急隊員などの教育に関与している	Ⅱ
1.2	救急部門の体制の確立	
1.2.1	救急医療を提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2.2	救急部門に必要な人員が確保されている	Ⅱ
1.2.3	救急患者の記録入力支援体制が確立している	Ⅱ
1.2.4	救急医療に必要な施設・設備が整備されている	Ⅱ
1.2.5	救急患者を受け入れる病床が確保されている	Ⅱ

## 2 救急患者への適切な対応

### 評価判定結果

2.1	チーム医療による診療・ケアの実践	
2.1.1	救急患者を適切に受け入れている	Ⅱ
2.1.2	救急患者受け入れ後の対応が適切に行われている	Ⅱ
2.1.3	緊急時の検査・診断に迅速に対応している	Ⅱ
2.1.4	救急患者の手術を適切に実施している	Ⅱ
2.1.5	救急患者の受け入れや対応における危機管理が適切に行われている	Ⅱ
2.1.6	救急部門において早期のリハビリテーションを適切に行っている	I
2.1.7	救急医療の記録を適切に記載している	Ⅱ
2.1.8	患者・家族への配慮や指導がなされている	Ⅱ

### 3 救急部門の質改善に向けた取り組み

## 評価判定結果

#### 3.1 質改善に向けた取り組み

3.1.1	救急医療に関する教育・研修を行っている	Ⅱ
-------	---------------------	---

3.1.2	診療の質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
-------	----------------------	---

3.1.3	救急医療の質改善に必要なデータを活用している	Ⅱ
-------	------------------------	---

## 4 災害時の適切な対応のための体制

### 評価判定結果

#### 4.1 災害時の医療支援と院内受け入れ対応のための体制

4.1.1	地域における役割を踏まえた災害時の対応に関する運営理念・運営方針を明確にしている	I
-------	--	---

4.1.2	多数傷病者発生時の院外派遣体制が整備されている	II
-------	-------------------------	----

4.1.3	多数傷病者発生時の院内受け入れ体制が整備されている	II
-------	---------------------------	----

#### 4.2 特殊災害への対応

4.2.1	病院の指定された役割分担に基づく特殊災害への対応のための体制が整備されている	II
-------	--	----